

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2010.12 第17号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：廣瀬慶寛）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成22年度総会ならびに研修会の報告

平成22年(2010)7月2日(金)、京都市北区の鹿苑寺(金閣寺)において、文化庁、京都府、京都市より来賓を迎え、また、鹿苑寺の緒方香州執事長にご臨席いただく中、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

今回の総会では、役員の変更がありました。本協議会発足以来代表に就任されていた玉根徳四郎氏が退任され、副代表であった廣瀬慶寛氏が新代表に、上原修氏(留任)、徳村盛市氏、水本隆信氏が副代表に就任されました。なお、玉根徳四郎氏については、本協議会の名誉代表に就任いただくこととなりました。また、各種研修事業に技術的な指導をいただく実技技能研修委員が新設され、加藤末男正会員が就任されました。

続いて、総会資料に従い議事が進められ、先に平成21年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成22年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、同会場で教養研修が行なわれました。

最初に、本中眞文化財主任調査官より、「名勝の保護」と題して、昨今の文化財保護行政について、近年は近代庭園の名勝への指定・登録が増えていること、庭園は生きている文化財であるとともに、芸術作品であり、歴史的な史料でもあるので、関係者が力をあわせて、維持・保存していくことが必要であり、現況を把握するためには実測図の作成なども重要になっているとのお話をいただきました。

続いて、中村一評議会員より、「鹿苑寺庭園について」と題して、鹿苑寺の前進である西園寺公経の北山第の名残はどこに見られるのか、また、足利義満の感性は庭園のどういう部分に表現されているのかなどを考えながら庭園を見て回ることも必要ではないかとお話しいただきました。

教養研修を終え、鹿苑寺内において実地技能研修が行われました。中村評議会員や鹿苑寺の庭園全般を管理されている平安林泉の玉根名誉代表より、庭園の歴史や特徴、管理の方法についてお話いただきながら、庭園を実地に視察しました。

翌3日(土)、4日(日)は京都市内の京都御苑内にある、旧九条家の拾翠亭に会場を移し、実技技能研修が行う予定でしたが、3日はあいにくの雨となり、拾翠亭や同じく京都御苑内にある閑院宮庭園を、尼崎博正、田中哲雄、中村一、丸山宏の各評議会員より、庭園の歴史や特徴について解説いただきながら見学しました。

3日目の4日(日)は天候が回復したため、尼崎・田中・中村・丸山評議会員の監修、京都御苑を所管している環境省京都御苑事務所の方々の立会いのもと、拾翠亭にて実技技能研修が行われました。

拾翠亭は、以前より何回かにわたり研修会場としていますが、今回は1日のみの作業となったこともあり、主に中低木の枝の透かしを中心に作



実技技能研修の様子(拾翠亭)

業しましたが、あわせて、庭園内に残る建造物の拾翠亭からの眺めを確保するため、庭園のほぼ中央に架かる高倉橋の脇の出島のサルスベリと、滝石組の南西側にあったムクノキの枝抜きなどの作業も行いました。

午後一番の総括の際には、玉根名誉代表より、はさみや鋸などでの手の入れ方を常に考えて今後も研鑽を積んで欲しいとの励ましの言葉をいただき、また尼崎評議会会員より、庭園全体のバランスを見ながら調整していくのが、庭園本来の手入れであり、そうしたことを念頭において今後も研鑽に努めて欲しいとのお話をいただきました。

さらに、若干の手直しの後、各班の作業内容の説明を受けながら園内を一通り巡ってから、あらためて各評議会会員より講評をいただきました。特に田中評議会会員からは、庭園の景観を旧来の姿に戻すにも、一気に仕上げる方法もあれば、長い期間をかけて整える手法もあることも考えながら、庭園を守って欲しいとのお話をいただき、実技技能研修を終えました。

庭園学講座17開催される

本協議会では、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座17「近代数寄者の庭—植治をめぐる人々」を特別教養研修と位置付け、会員の方に開講のご案内をさせていただきましたところ、今回、6名の会員にご参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成22年(2010)8月27日(金)から29日(日)の3日間開催されました。

1日目は、京都造形芸術大学で、林原美術館の熊倉功夫館長より、「近代数寄者の趣向」と題して、「数寄」という言葉の意味の変遷に始まり、江戸時代から千利休を祖として続く茶道と、明治以降、政財界の要人達が親しんだお茶に対しての考え方の違いとともに、庭園への接し方の違いなどについてのご講義から始まりました。続いて、本協議会評議会会員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より、「植治(7代目小川治兵衛)の仕事とその周辺」と題して、植治の作庭した庭園の系譜をご説明いただくとともに、山県有朋や西園寺公望をはじめとする、植治の作庭の技術や構想に大きな影響を与えた人物たちの作った庭園の趣向や植治との関わり、さらには近代の時代背景としての煎茶の流行との関わりなどについてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、京都岡崎南禅寺界限で、植治の作庭になる、国指定名勝で山県有朋の居宅であった無隣庵と、もと塚本与三次の邸宅であった流響院を見学し、植治の庭園観などとともに作庭以後の変遷などについてご解説いただきながら見学を行いました。

2日目は、午前中は京都造形芸術大学での講義で始まりました。まずは、京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎准教授より、「数寄屋大工の近代」と題して、近代に活躍した数寄屋大工達の人物像とともに、近代ならではの数寄屋建築の特徴などについてご講義いただきました。続いて奈良文化財研究所文化遺産部の小野健吉部長より、「京都画壇と庭園」と題して、植治を取り巻く人物の中から、画家や図案家といった芸術家達の作庭思想や、植治への影響などについてご講義いただき、さらに、当協議会の事務局次長で、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長の仲隆裕教授より、「近代庭園の文化財指定と保存修復のとりくみ」と題して、近代に作庭された庭園が文化財指定されるにいたる経緯とともに、各地での保存の取り組みの実例についてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、初日と同様、京都岡崎南禅寺界限で、植治の作庭になる、もと塚本与三次の邸宅であった清流亭と、細川家の邸宅であった怡園を見学しました。

3日目は終日現地研修となり、まず午前中は、京都の禅刹大徳寺の塔頭、小堀遠州(政一)の作庭になる孤篷庵と、細川三斎の菩提寺である高桐院という、いずれも著名な茶人に関わる庭園と茶室を見学し、それぞれの茶室・茶庭の特徴についてご解説いただきながら見学を行いました。

続いて午後は、同じ江戸時代でも煎茶の影響を色濃く反映しているとされる、東本願寺の涉成園(枳殻邸)を見学しました。涉成園ではまず、京都造形芸術大学教授で、小川流煎茶の小川後楽家元に、近代に先立つ江戸時代の煎茶の様相や、庭園との関わりについてご講義いただいて後、涉成園内を、その特徴やまだ解明されていない疑問点などについてご解説をいただきながら見学しました。見学の合間には、尼崎博正所長と本協議会の研修会員でもある植彌加藤造園(株)の加藤友規代表取締役より、涉成園と煎茶との関わりや、涉成園の実際の利用方法などについてもご解説いただき、最後に、尼崎博正所長より、修了証書の授与と閉講のご挨拶をいただき、3日間の講座を終了しました。

文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2010 ～歴史を超えた匠の技～」開催される

平成22年(2010)9月19(日)・20(月・祝)、奈良県奈良市の国立文化財機構奈良文化財研究所において、文化庁主催シンポジウム『文化財保存技術2010 ～歴史を超えた匠の技～』が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会も事務局から都合4名が出席し、本協議会の設立趣旨や研修の様子などのパネル展示を行いました。

今回は、従前よりのパネル展示、昨年より行っている垣根の実物の展示に加え、京都市の特別史跡特別名勝の醍醐寺三宝院庭園の植栽管理などの様子を録画・編集したビデオを放映しました。

また、シンポジウム期間内、選定保存技術保存団体の連合体である全国文化財保存技術連合会の総会も開催され、連合会の平成23年度事業計画の審議が行われました。



シンポジウム会場の展示風景

平成22年度実技技能研修及び第7回文化財庭園フォーラム開催される

平成22年(2010)10月15(金)～17(日)の3日間、長崎県対馬市において実技技能研修及び文化財庭園フォーラムを開催し、30名の会員にご参加いただきました。文化財庭園フォーラムについては、本協議会の主催、対馬市教育委員会の共催のもと、本評議会の尼崎博正・田中哲雄・龍居竹之介・中村一・丸山宏の各評議会員の監修で、見学会・シンポジウムは一般公開形式で行いました。その概要をご報告いたします。

15日(金)、16日(土)には、長崎県対馬市に所在する対馬藩主宗家墓所(万松院)を研修会場にして、実技技能研修を実施しました。剪定技術により、どのようにして本来の庭園の姿を取り戻すか、評議会員、会員諸氏で討議した上で、廣瀬慶寛代表が全体の技術指導にあたり、正会員を中心に管理実技が進められました。そして16日(土)には、文化財庭園フォーラムの一環として文化財庭園保存管理技術見学会を開催し、万松院の庭園の歴史やその価値について解説するとともに、本協議会技能会員の庭園管理技術を広く一般の方に公開しました。



技術見学会の様子(万松院)



技術見学会中の燈籠の据え直し(万松院)

万松院は、対馬藩主であった宗家の歴代の菩提を弔うために創建された寺院で、現在地には江戸時代の前期に造営されました。対馬には、対馬藩時代の朝鮮との貿易や外交などに関する膨大な史料が残されていますが、庭園に関しては史料の調査・分析が進んでいないため、その歴史についてはほとんどわかっていません。現在の庭園は、本堂の背後に山の稜線を背景に石橋の架かった池が作られ、燈籠が据えられ、モミジやカヤ、イヌマキなどが植栽されています。しかし、長年にわたる樹木の伸長により、庭園全体がうっそうとしてしまい、池の護岸が見えなくなり、また山の稜線などの眺望が遮られるようになっていました。

そこで今回は、大きく伸長している高木の強剪定を中心に作業を行い、背後の稜線への眺望を確保しました。また、あわせて、池岸に据えられていた雪見燈籠が大きく傾いていたため、これの据え直しも行いました。この燈籠の据え直しは見学者の方にも非常に興味深かったようで、石造品についても様々な質問が飛び出していました。

17日(日)は、対馬市の対馬市交流センターをお借りして、文化財庭園フォーラムのシンポジウムを開催し、本協議会の会員を含めて多数の方にご参加いただきました。第1部の講演会では、文化庁記念物課の中島義晴文化財調査官より「日本の名勝について」と題して、文化財の種類、名勝に含まれる文化財の種類や近年の名勝保護の傾向、最近に指定・登録された庭園の概要や保存・修理のための各地の取り組みなどについてのご講演をいただきました。

第2部パネルディスカッションは、「文化財庭園の保存継承」をテーマにすすめられました。コーディネーターを文化財指定庭園保護協議会の樋渡達也前会長にお願いし、パネラーとして、郷土史研究家の齋藤弘征氏、長崎県対馬市教育委員会文化財課の尾上博一主任、株式会社空間文化開発機構の真鍋建男代表取締役、京都造形芸術大学の尼崎博正教授、京都大学の中村一名誉教授をお迎えして議論が交わされました。

まずはパネラーの方々からの報告がはじまりました。最初に、齋藤弘征氏からは万松院に隣接する国指定名勝の旧金石城庭園と朝鮮通信使との関わりについて、尾上博一主任からは旧金石城庭園の発掘調査の様子について、真鍋建男代表取締役からは旧金石城庭園の整備の経緯について、尼崎博正教授からは庭園と水系も含めた周辺環境の保全の必要性について、京都大学の中村一名誉教授からは庭園を皆が利用することの意義について、それぞれお話いただきました。

こうしてパネラーの報告の後、パネルディスカッションとなり、庭園の捉え方や保存・維持管理について様々に議論が交わされました。

そして最後に、樋渡達也前会長より、対馬には朝鮮との交流の様子を伝える、対馬ならではの文物が非常に豊富であること、さらに庭園を含めたこうした歴史的な環境を守っていくには、所有者、技術者、庭を楽しむ市民の3者の連携が非常に重要であり、市民の皆さんにも、庭園や様々に残る文化財、また対馬そのものを愛して、守って欲しいと締めくくっていただきました。

なお、16・17日の研修やフォーラムの合間に旧金石城庭園の見学を行いました。金石城は明治維新後に廃城となり、江戸時代に作られた庭園なども地下に埋もれていましたが、発掘調査の成果などをもとに復元整備事業が進められ、往時の姿が復元されています。ここでも長崎県対馬市教育委員会文化財課の尾上博一主任より詳細なご解説をいただきました。そして最後に、尼崎博正・龍居竹之介・田中哲雄・中村一・丸山宏評議員より全体の講評をいただいて、3日間の研修を終了しました。

新規加入会員の紹介

平成22年(2010)11月末日で技能会員は151名、支援会員・賛助会員は17団体、2名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員区分	氏名	所属	会員区分	氏名	所属
準会員	長谷川 孝	花豊造園(株)	研修会員	濱 惠一	(株)中造園
準会員補	松村 達樹	樋口造園(株)	研修会員	大出 純孝	(株)中造園
研修会員	中 邦暁	(株)中造園	研修会員	森本 隆嗣	花豊造園(株)

2011年の特別技能研修の開催について

新年2011年は、1月22～24日には横浜の三溪園で、2月は19～21日(予定)で京都での特別技能研修を計画しておりますが、受入れ人数の関係もあり、**研修会員のみを対象とさせていただきます。**

なお、希望者が少ない場合には、研修会員以外の方の参加も受け入れる方針ですが、**その場合は、旅費などの補助はありませんので、実費負担をお願いすることとなります。**ご了承下さい。

申し込みの締め切りは1月13日(木)となっております。研修会員以外の方はそれまでに詳細を事務局までお尋ね下さい。

(※全会員対象の実地の研修は、3月中旬くらいに東京で実施の予定です。)